

# モノづくり現場

6

## エレクトロヒート技術最前線

日本ホーク(三重県桑名市、小森勝則社長、0594・22・5433)は、トラクタで田畑を耕すのに用いる耕耘爪を製造する。大型の爪を得意とし、年間150万本、90~100種類を生産する。特殊合金を耕耘爪に溶着するなど技術の蓄積が強みだ。

平鋼材の加熱には重油加熱式回転炉を長く使用していたが、5月から電気式誘導加熱炉に切り替えた。導入の決め手は、生産効率向上への期待だ。

電気式誘導加熱炉の導入で、最も効果を発揮したのはのが成形の品質が安定したこと。秒単位で材料排出が可能になり、材料の温度管理を数値化して把握できる。一定の温度で加熱できることが不良品の軽減につながり、「不良はほぼゼロ(五十嵐亮人取締役生産管理部長)と大きく改善した。

従来の重油加熱式回転炉は、火力調整のためブローアで空気を送り込んでおり、耕耘爪の表面に「肌荒れ」という脱炭が発生することがあった。多い時で、1ロット3000本のうち、100本近く

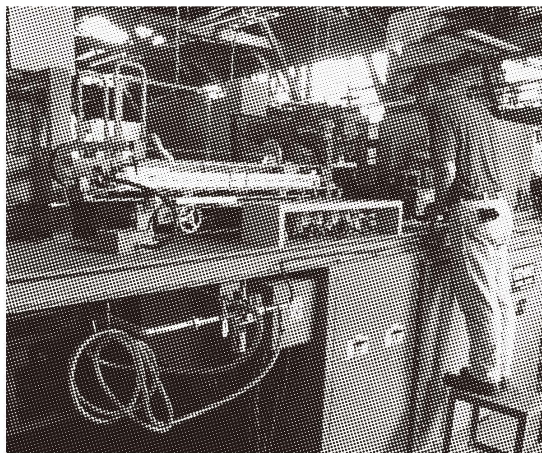
# 平鋼の成形品質が安定

くのが不良が発生したこともあった。不良率の大幅減は、生産効率向上に寄与している。

作業環境の改善効果も大きい。特に、夏場の高温下での作業が減り、従業員の負担を軽減した。また「炉内の温度管理から、製品管理に注力できるようになった」(同)。これらの改善で「生産効率は約20%上がった」(同)と評価する。

物流面で貨物列車を活用するモーダルシフトを実施するなど環境保全に熱心に取り組む。

## 電気式誘導加熱炉を導入



新規導入した電気式誘導加熱炉

現在も燃焼式加熱炉2基が稼働中だが、今後電気式に切り替えを検討している。

計画。環境意識が全社に根付いている。(名古屋・鈴木俊彦)

### 事業所概要

▷所在地=三重県桑名市福島843、0594・22・5433▷主要生産品目=トラクター耕耘爪▷年間エネルギー使用量(13年度)=420千kWh▷年間CO<sub>2</sub>排出量(同)=2054ト

## 日本ホーク